

会議名：令和3年度 第2回三原村地域公共交通会議 議事概要

日時：令和3年12月24日(金) 13:30～15:00

場所：農業構造改善センター 農事研修室

出席者：矢野、藤本、山本、出海、岡田（代理：宅間）、小松（代理：武田）、寺村、西内、市原、杉本、嶋田、宮崎、宮渕、中内、新谷、阿部、岩本、岡村、片岡  
（会長、副会長、その後は名簿順、敬称略）

#### 決定事項

- 出席者が委員の過半数を超えており、開催条件を満たしていることが確認された。
- 今回の会議では「計画の方針」の決定を目指しており、決定した方針に基づき、具体的な施策の検討を今後行う予定と事務局側から説明が行われた。資料1及び資料2参照。
- まず計画の方針(案)の説明が行われた。資料3-1参照。

主な説明点は次のとおり。

- ・計画期間は令和4年4月1日から令和9年3月31日までの5年間。
- ・対象地域は三原村全域。ただし、この後説明する調査結果より平田地区は重要と考え、対象地区外ではあるが図1に「平田」と記載した。
- ・基本方針は表1とした。公共交通網の役割分担は表2とした。4.タクシー以外は現存サービスである。タクシーの利用者ニーズは、今回行った調査でニーズがあると確認された。いかにして確保するか、今後の検討課題だと考えている。また村内移動と村外との移動を区別するのが望ましいと思われ、村内移動は様々な移動手段の組合せを想定している。
- ・計画の目標は表3とした。
  - 目標1は、自家用車を含め全村民が何らかの移動手段を有する。公共交通として、交通空白地を作らないことを意図している。
  - 目標2は、具体には三原バスの運行の改善や見直しを、継続的に行うことを想定した目標である。
  - 目標3は、利用者数や運行費用を一つの評価指標とし、運行規模や存続等を判断する。なお人口減少が予測されているため、「人口当たりの利用者数の現状維持」を目標とした。
  - 目標4以降は定性的な目標である。調査結果等から、役場とじまんやの間に各施設が集中しており、また利用実態も一致していることから掲げた目標。一般的な具体例として結節点整備などが想定される。
  - 目標5は、観光客など村民以外を意図し、自家用車以外でも三原村に訪れる事が出来るよう、情報発信強化などに取組む事を想定している。
  - 目標6は、運転免許返納の意識したものである。
  - 目標7は、環境に配慮し、温室効果ガス削減に努めるものである。
- ・5.及び6.は、本日の会議の結果に基づき、今後具体的に検討を行う。

質疑やコメントは次のとおり。

- ・目標7だが、具体にはどのようなことを想定しているのか？
  - 主にバス車両の更新を意図している。老朽化が進む車両があり、更新時に、利用実態に応じ

た車両のダウンサイジング、ハイブリッド車の導入などを想定している。また自転車等も意図していると事務局側より回答があった。

- バスだけでなく、タクシー車両も含めてはどうかとのコメントがあった。
- ・三原バスの運行方法やダイヤ等について、この会議では議論を行わないのかとの質問があった。
  - 会議としては対象であるが、今年度は時間的に難しい。今年度の策定した公共交通計画に基づき、次年度以降に検討及び実行が現実的と考えている。表3の目標1と目標2は、次年度以降の検討を意識した目標であると事務局側から回答があった。
- ・目標1と表3だが、現行の三原バスの路線で空白地は無いと考えられるが、さらにタクシーなどで補完をするのか？
  - 調査結果からも現在の三原バスの路線で概ね空白地が無いことが確認できた。目標1は既に達成できていると考えるが、今後もこの状況を維持するために目標として定める必要があると考えている。また、時間的に考えると三原バスだけでは自由度が低いため、例えば行きはバス、帰りはタクシーと言った組合せを想定し、表2の役割分担を考えた事務局側より回答があった。
  - 表2は、現在の課題を解決・改善するための役割について、具体的に書く方が良いのではとのコメントがあった。
- ・自転車も組合せた移動を例に挙げたが、具体的な取組みとして結節点や自転車置き場の整備を想定しているのか？
  - 一般論としてそのように想定しており、具体的な検討を今後行うと事務局側から回答があった。
- ・現在の三原バスの費用について質問があった。
  - おおよその規模だが、委託費はスクールと廃止代替合わせて年間1,100万円、収入は70万円。車両の維持費や燃料代は含まないと事務局側から回答があった。
- 次に計画の方針(案)の検討材料とした調査結果の説明が行われた。
  - ・アンケート調査結果(速報)について説明が行われた。主な結果は次の通り。資料3-2参照。
    - この資料は速報。今後クロス集計を行う予定。
    - 5ページより自分で運転が最も多い。また不明はあったかふれあいの参加者からの回答が多い。
    - 6ページだが、年齢が高まると移動スーパーの利用率が高まる。
    - 7ページだが、年齢層によって買い物頻度に違いが見られる。学生や高齢者では頻度が少ない。
    - 8ページだが、全体としては自分で運転が多いが、75歳以上で状況が変わり、自分で運転の割合が低下する。
    - 9ページだが、年齢層が高くなると、じまんやの割合が高くなる。
    - 11ページだが、年齢層が高くなると、自分で運転の割合が下がる。
  - ・三原バス利用調査結果について説明が行われた。主な結果は次の通り。資料3-3参照。
    - 調査方法等はA4版のとおり。曜日が2通り、年齢層が4通り、計8枚のOD表をA3版

として作成した。

- 乗車または降車のどちらかが、三原村中心部か平田地区（平田駅バス停とけんみん病院バス停）であった。これは村内各地の居住地と、村の中心部または平田地区との移動に使われていることを意味する。
- 村内移動が6~7割、村外（平田地区）との移動が3~4割であった。日常の生活圏は村内だけでないと言え、対象地域は三原村だけではなく、けんみん病院や平田駅（鉄道等との接続）を意識するのが望ましいと考える。また村内移動と村外との移動の2つに区別することが望ましいと考えられる。
- 年齢層別には、夏休み期間であったが子どもがもっとも多かった。また予想より大人の利用が多く、様々な年齢層の人が利用していることが確認できた。

質疑やコメントは次のとおり。

- ・ 通勤先だが予想より三原村が多い。わかっていることがあれば教えてほしい。
  - 調査方法の影響が大きいと考えると事務局側から回答があった。
  - ・ 平田駅の乗降実態に関してコメントがあった。
  - 「平日・全年齢のOD表」だと、平田駅の降車は5.4人、乗車は3.3人と異なり、興味深い結果だ。例えば行きはバス、帰りは誰かに送ってもらっている等の実態が想像される。
  - ・ 何年か前に三原バスの運賃が100円になった。それまでは平田まで350円で、保護者が送迎し、通学利用はまったくなかったが、100円になってからは、通学で利用されるようになった。
  - ・ 資料3-2の15ページ、居住地区と行先の組合せの分析を行ってほしい。特に通院と買い物目的。資料3-3と比較することで、潜在需要と顕在需要の比較ができるのではとのコメントがあった。
  - ・ 資料3-2の8ページ、送迎サービスはゼロとなっているが、この送迎サービスはあったかふれあいの事を指しているのか？
  - アンケートはあったかふれあいを想定して設計した。回答者がどうとらえ、回答したかはわからないとの回答が事務局側よりあった。
- 資料3-1計画の方針(案)について、審議が諮られた。
- ・ 表3の計画の目標については、具体的な追記を求める意見が出された。その他の意見は無かった。
  - ・ 計画の目標へは適宜追記の可能性があるとの前提下で、計画の方針(案)は承認された。

以上